



TITLE:

刊行規定・投稿規程(抄)・編集後記
・本号執筆者・表紙

AUTHOR(S):

CITATION:

刊行規定・投稿規程(抄)・編集後記・本号執筆者・表紙. 京都大学生涯
教育学・図書館情報学研究 2012, 11: 179-180

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/158650>

RIGHT:

京都大学 生涯教育学・図書館情報学 研究

第 11 号

【論 文】

図書館情報学教育での「知的自由」の取り扱いについての考察

—インタビューを手がかりにした日米の比較— 安 里 のり子 1

ソフト・パワーの視点から読むポピュラー音楽研究 長 崎 励 朗 17

放送メディアにおけるソフト・パワー論の系譜(文献展望) 白 戸 健一郎 25

プリント・メディアをめぐる対外文化政策研究(文献展望)

—ソフト・パワーの構築に向けて— 松 永 智 子 39

90年代における若者運動「だめ連」とマスメディア 福 井 孝 宗 59

初期社会教育論における「職業に関する教育」の位置づけに関する考察 倉 知 典 弘 81

在日コリアン1世における母語学習 崔 善 今 101

京都国際学園における教育の新たな試みと課題 崔 善 今 117

【シンポジウム報告】

変動する現代社会のなかで「教えること」とは

—高等教育・生涯学習をめぐる日英研究者の対話— 柴 原 真知子 149

「教えること」と「教育」の間に

—P. ジャーヴィス氏との対話をふり返って— 吉 田 正 純 161

【書評】

Sherry Turkle “Alone Together :Why We Expect More From Technology and Less From Each Other” (Basic books, 2011)

福 井 孝 宗 169

『京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究』

刊行規定・投稿規程

(生涯教育学講座 紀要編集委員会 記)

私たち京都大学生涯教育学講座は、皆様のご支援とご協力を賜りながら、『生涯教育学・図書館情報学研究』の第11号の発刊に至りました。今後も各分野の研究交流と教育活動の活性化を図るため、内容の充実に鋭意努めながら継続した編集・発行を目指していききたいと思えます。

2012年5月1日

記

○刊行規定(2006年5月12日改定)

- ・ **趣旨**：生涯教育学・図書館情報学・メディア論の各分野の研究・教育の活性化と、内外の研究者および教育関係者との交流および双方の発展を意図し、生涯教育学講座の院生が中心となって、現在の同講座に関わる教員、大学院生およびOB／OGの研究成果を掲載し公表することを目的とする。
- ・ **掲載原稿の種類**：上記の趣旨にのっとり、研究論文、研究ノート、翻訳、研究動向、実践報告、書評（文献資料・図書紹介）、コラムを主として掲載するものである。
- ・ **執筆資格**：本紀要の執筆資格者は、原則として、同講座の教員・非常勤講師（過去の非常勤経験者を含む）、修士・博士課程在籍者、同OB／OG、研修員とする。それ以外の者の執筆については、上記該当者との共同執筆による場合、ないし編集委員会において特別の必要を認めた場合とする。

○投稿規程(2010年10月1日改定)

- ・ 原稿のテーマは本紀要の趣旨に沿うものとする。
- ・ 原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料の場合はこの限りではない。
- ・ 原稿は、ワープロ書きで提出するものとする。横書き・A4版。400字詰め原稿換算で60枚（図・表・注・文献等も含む）を原則として上限とする。（注は数字のみで文末注）
- ・ 原稿には必ず英文のタイトルをつける。
- ・ プリントアウトした原稿1部を綴じ、必要に応じて修正した提出届と電子データを記録したメディア（CD-Rなど）を添えて所定のボックスに提出する。添付ファイルのみでの提出は原則として認めないが、これらを直接持参しての提出が困難な場合は、適宜担当の編集委員に問い合わせること。なお、提出された原稿は返却しない。

編集後記

『京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究』は今年で創刊から10年目を迎えます。この節目に当たって、本誌の刊行体制等について再検討がなされた結果、本誌はこの11号をもちまして一旦休刊することとなりました。この休刊の期間は、社会的要請にこたえつつ、実りある研究・実践活動を継続していくにはどうしたらよいか、じっくり再考する積極的な期間だと考えています。そして皆様のご意見・ご批判を受けてこれまでの軌跡をふり返りつつ、今後の社会を見据えて、私たち一人一人が研究者として、どのような情報発信をしていったら良いのか、社会的な役割と責任をどう果たしていくべきなのかを見極め、これからの研究・実践と情報発信の発展の礎としたいと思います。

よって、『京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究』は一旦終止符を打ちますが、今後は、継続後誌において、更なる挑戦的研究・実践の報告の場として意義深い知の創造をめざしたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、難航する編集作業を助けていただいた先生方、院生の方々に心よりお礼申し上げます。

(2012年3月 編集委員会事務局 銚 記)

本号執筆者（執筆順）

安里のり子（准教授　ハワイ大学コンピュータ情報科学部図書館情報学科）

長崎励朗（本学大学大学院教育学研究科博士後期課程）

白戸健一郎（本学大学大学院教育学研究科博士後期課程）

松永智子（本学大学大学院教育学研究科博士後期課程）

福井孝宗（本学大学大学院教育学研究科修士課程）

倉知典弘（吉備国際大学社会学部スポーツ社会学科講師）

崔善今（本学大学大学院教育学研究科博士後期課程）

柴原真知子（本学大学医学教育推進センター特定助教）

吉田正純（本学大学大学院教育学研究科コラボレーションセンター助教）